

※このリリース内容は本日 14 時以降にご公表お願い致します。

立命館アジア太平洋大学
2014 年 9 月 26 日

文部科学省の平成26年度「スーパーグローバル大学創成支援」に 立命館アジア太平洋大学(APU)のプログラムが採択

立命館アジア太平洋大学（以下 APU）では、文部科学省の平成 26 年度「スーパーグローバル大学創成支援」のタイプ B「グローバル化牽引型」に申請・採択されましたので、お知らせします。

「スーパーグローバル大学創成支援」は、「大学改革」と「国際化」を断行し、国際通用性、ひいては国際競争力の強化に取り組む大学の教育環境の整備支援を目的としています(文部科学省 HP より)。

本事業には、世界大学ランキングトップ 100 を目指す力のある、世界レベルの教育研究を行うトップ大学を対象とするタイプ A「トップ型」と、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引する大学を対象とするタイプ B「グローバル化牽引型」の二区分があり、両タイプ合わせて 104 の大学から 109 件の応募がありました。最終的な採択件数は、タイプ A が 13 件（採択率 81%）、タイプ B が 24 件（採択率 26%）となりました。

APU はタイプ B「グローバル化牽引型」に応募し、採択に至りました。なお、「グローバル化牽引型」については、大学の規模に応じて、年間 200～300 百万円の補助金が最大 10 年間にわたって交付されます。

別紙に、本プログラム採択についての学長談話と、APU の取り組み概要を記載しております。

記

1. 事業名 : 平成 26 年度 スーパーグローバル大学創成支援
2. 申請区分 : タイプ B「グローバル化牽引型」
3. 添付資料 : 学長談話、APU 取組概要 (送付文書 : 全 3 枚)

以 上

※「平成 26 年度スーパーグローバル大学創成支援」の採択結果一覧については、下記の URL の文部科学省のサイトに掲載予定でございます。

<http://www.mext.go.jp/>

- 内容についてのお問い合わせ先
立命館アジア太平洋大学（担当：伊藤・宮原） TEL:0977-78-1114 FAX:0977-78-1108

【学長談話】

今般、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業において、本学が申請した「Global Learning: 大学教育の新しい地平を目指す」が採択されたことをご報告いたします。APU は大分県・別府市の絶大な支援を受けて、立命館が2000年に設置して以来、15年間にわたり、教職員一同、幾多の困難を乗り越え、真摯に教育・研究にとりこんでまいりました。APU が学生の半数を留学生、教員の半数も外国籍とする環境を構築するなど、世界に類のない多文化環境のもと、日英二言語教育や春・秋入学制度を導入するなど、絶えず限界に挑戦しながら、グローバル人材の育成にひたすら邁進してきたことを認めていただいたと受けとめております。

しかしながら、これまでの到達点はあくまで通過点であり、今後も世界の縮図である APU キャンパスで、相手の存在を尊重し、違いを認め、時には生じる対立を乗り越えて、他者と協調・対話しながら、新しい価値を生み出す人材を育ててまいりたいと思います。なにより学生の成長・成功に重点を置き、国際的水準の教育・研究の向上、質保証に継続して取り組み、世界一と認められるような Global Learning コミュニティの創造を行います。

今次の採択を新たな出発点として、APU は日本における先進的国際大学から、大きく飛躍して世界から評価され選ばれる大学になることを決意し、不断の努力を続けていく所存です。

そして、同じく採択された立命館大学との連携を強め、総合学園にふさわしい壮大な展開をおこなっていき、日本の国際化と国際平和に貢献したいと考えております。

今後とも、APU へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2014年9月26日
立命館アジア太平洋大学
学長 是永 駿

文部科学省 平成 26 年度スーパーグローバル大学等事業
「スーパーグローバル大学創成支援」 【タイプ B : グローバル化牽引型】

大学名 立命館アジア太平洋大学 (APU) 「Global Learning: 大学教育の新たな地平を目指す」

1. APU の到達点

APU は、「自由・平和・ヒューマニティ」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として 2000 年に開学して、構想の実現、実質化を進めている。多様性が創造性を生むという考えの下に、突出した多文化環境の実現を目指し、80 カ国・地域以上から 2 千数百名の国際学生が、正規課程の学部生として 4 年間、ほぼ同数の国内学生とともに学ぶという、他の追随を許さない多文化教育環境を実現した*。開学当初から、日英二言語による授業開講、春・秋入学、クォーター制度などの国際標準の教育システムを採用し、多くの優れた国際学生を受け入れて、日本で最も国際化が進んだ大学として、日本の高等教育のグローバル化を牽引してきた。

*【参考】在留資格を「留学」とする学部留学生数 1 位 (2,286 名、2014 年 5 月 1 日現在)

2. 構想の目的

APU が築き上げてきた国際教育の実績を踏まえつつ、本構想を通じて「国際化された日本の大学が、いかに世界で通用するか」という新たな挑戦に挑む。世界屈指の多文化環境を徹底的に活用し、新しい価値を生み出す人材を育成するための「Global Learning (グローバルラーニング)」を推進し、世界の大学でも突出した評価を獲得するとともに、取り組みや成果を他大学と広く共有し、今後の国内外の大学や、地域社会のグローバル化に貢献する。

2. Global Learning 実現のための柱

- ① 圧倒的な多国籍・多文化教育環境のさらなる強化
 - ・ 比較的受入れ人数の少ないアフリカ、中南米、ロシア、南アジア等からの学生受入れ
- ② 学生生活の過程に無数の成長の機会を生み出す
 - ・ 学生間の協調や対立を合わせ持つ異文化接触の仕掛けを多層的に設け、多文化交流・協働学習の仕掛けを、教育、生活、各種活動のあらゆる分野へ拡充
- ③ 「学生の学び合い」と「学習の動機付け」を重視した教育の展開
 - ・ 圧倒的多文化環境を活用した学生の成長機会の提供を、全ての教職員が実践し、学生主体の Learning を中心に据えた、主体的・自律的な学びを推進
- ④ 世界の多様なステークホルダーの大学運営や教育への参画

3. 構想の詳細

◆ Global Learning の手法開発

- ・ 多文化環境を活かした多国籍グループでの協働学習 100%実施
- ・ 初年次学生 100%参加の教育寮展開と、教育寮を活用した多文化融合型オナーズ・プログラム
- ・ 日本語、英語 + 第3・4 (アジア太平洋地域) 言語学習プログラム強化・拡充
- ・ 世界中の卒業生が参画する教育展開
- ・ 日本人学生の海外経験 100%

◆ 国際的な教育研究、大学運営の質保証・向上

- ・ 学生の学習と学習到達レベルをマトリクス形式で示す国際標準の評価指標「VALUE Rubrics」導入
- ・ 国際的通用性のある国際認証評価 (ビジネススクール AACSB、EQUIS 等) の取得
- ・ 国際標準の教職員を育てるための、研修・研究的機能を有した多文化 FD/SD センターの設置

◆ Global Learning を支える多様な連携

- ・ 米国、アジア等の大学とのジョイントディグリー、ダブルディグリー等の国際連携プログラム開発
- ・ ビジネス・スクール (学部・大学院) の国際的アライアンスの構築
- ・ 国際アドミッションズ連携 (100 カ国地域からの学生受入れ戦略)
- ・ 企業連携 (企業等のグローバル人材育成研修)、地域連携 (大分・別府の国際化への貢献)
- ・ 世界 150 カ国地域に広がる卒業生との連携

◆ 大学ガバナンス改革

- ・ APU Governing Advisory Board の設置、大学執行部の国際流動性向上、職員高度化、等